

I 投稿規定 (2011年11月作成, 2018年4月改訂)

1 概要

Journal of Life Science Research (JLSR) (以下, 本誌) は, ライフサイエンスに関連する研究論文や教育論文などを掲載する. ライフサイエンスには, 自然科学的分野に加え, 社会科学的分野, 人文科学的分野なども含まれる. JLSR 編集部 (以下, 編集部) が, 本誌を編集しオンラインジャーナルとして公表する.

2 投稿資格

- (1) 本学の教員
- (2) 編集部が適当と認めた者

3 原稿執筆と論文種別

原稿は「II原稿執筆要領」にしたがって執筆する. 執筆言語は英語あるいは日本語とする.

英文論文における種別は, Review, Original, Short Communication, Rapid Communication, Report, Overview など, 和文論文における種別は, 総説, 原著, 短報, 速報, 報告, 解説など, いずれも未発表のものに限る (種別の概要参照). ただし編集部の判定により種別の変更を求める場合がある. また, 招待論文などを掲載することもある.

英文論文, 和文論文中の英文 (表題, 抄録, Key words) については, 内容のわかるネイティブスピーカーによる校閲が必要である.

種別の概要

Review (総説): 興味深い最新の科学的知見について総合的に論じたもの, または著者の研究成果を中心に総合的に論じたもの.

Original (原著): 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で完成度の高いもの.

Short Communication (短報): 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究であるが, 断片的な研究であってよい.

Rapid Communication (速報): 独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で緊急性を要するもので, 断片的な研究であってもよい. この内容は, 本誌あるいは他誌へ完成度の高い原著論文として公表することができる.

Report (報告): 以下のいずれかの内容のもの.

- (1) 役に立つ研究手法・技術の工夫や開発
- (2) 資料的価値のあるもの
- (3) 講演などの記録や講演の内容などを中心にまとめたもの
- (4) 種々の研究費を受けた場合の研究成果報告書
- (5) その他

Overview (解説): 興味深い科学的テーマ, 知見, 技術について解説し, 教育的内容を含むもの. また, 本学が中心となり開催した公開講座などの内容をまとめたもの.

4 ヒトや動物を対象とした研究

人体ならびにヒト組織を対象とした研究は「ヘルシンキ宣言」（1964年採択，2008年修正）の倫理基準に，臨床研究に関する研究は「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省，2008年）に，ヒト遺伝子に関する研究は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省，経済産業省，2008年）にしたがう．動物実験の場合は，「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（文部科学省，2006年），「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議，2006年），所属機関の定める動物実験ガイドラインや規程などにしたがう．

投稿論文は，所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたもの，所属機関の定める動物実験ガイドラインや規程などにしたがって実施されたもの，に限って受け付ける．また，投稿論文が上記の指針やガイドラインにしたがって実施されたことを本文中に明記する．

5 利益相反

投稿論文における研究の遂行や，論文作成にバイアスを生じさせる可能性があるすべての利益関係を開示する．著者全員に利益相反が無い場合は，「開示すべき利益相反なし」と明記し，利益相反がある著者がいる場合は，その氏名およびその利益相反をすべて明記する．

6 投稿方法

図・表を含む原稿を1つのWord[®]ファイルとし，Eメール（以下，メール）に添付し，編集員あるいはWebサイトの“CONTACT US (JLSR)”へ送信する．

メールの件名には「JLSR 投稿原稿」と記入し，メール本文には投稿論文の内容に精通した査読者2-4名の氏名を記載する．さらに，推薦した査読者の連絡先（所属，住所，メールアドレス，電話番号）を記載する．

7 原稿の受領

投稿規定および原稿執筆要領にしたがって作成された原稿に対しては，担当編集員から「原稿受領書」が連絡著者に発行される．なお，投稿規定および原稿執筆要領から著しく逸脱した原稿は受領前に修正を求める．

8 原稿の査読と受理

投稿原稿は，連絡著者が推薦した査読者（2-4名）を考慮して編集部が適切と認めた査読者（原則として2名以上）の意見をもとに編集部が採否を決定する．

投稿原稿の改訂を求められた際には，指定された提出期限までに改定原稿を提出する．提出期限を過ぎた場合は再投稿扱いとなる．

投稿原稿が受理された場合には，担当編集員から「原稿受理書」が連絡著者に発行される．

9 校正

初校には最終原稿は添付しない．初校は著者が校正する（著者校正）．その際，組版上の誤り以外の字句の訂正，挿入および削除は認めない．ただし，編集部が特別の事情があると認めた場合は許可することがある．著者校正は1回である．

校正済み初校はPDFファイルで編集部へ提出する．

10 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は大阪府立大学に帰属する。

11 掲載費用

掲載費用は無料である。別刷は PDF ファイルとして無料で配付する。なお、紙媒体の別刷は有料となり、カラー印刷など特別に派生した費用は追加料金が必要となる。

II 原稿執筆要領 (2011年11月作成, 2018年4月改訂)

1 一般的注意

1.1 原稿の長さは原則として公開時 A4 判で 10 ページ以内とする。

1.2 原稿は Word® (2003 形式) で作成する。用紙は A4 判で、上下左右に 2.5 cm の余白をとる。1 段組み、1 ページ当たりの行数は 30 行、1 行当たりの文字数は 40 字、フォントサイズ 10.5 ポイントで作成する。

1.3 英文はアメリカンスタイルとする。和文の句読点はコンマ・ピリオド方式 (, .) とする。

1.4 図 (写真) , 表なども含めて全ページに通し番号を原稿の下中央に入れ、表紙を第 1 ページとする。

2 表紙

2.1 英文論文: 英文で種別, 表題, 著者名 (フルネーム) , 所属, 住所を記入する。連絡著者の右肩にダガー (†) を付ける。

和文論文: 和文で種別, 表題, 著者名, 所属, 住所を, つぎに英文で表題, 著者名 (フルネーム) , 所属, 住所を記入する。連絡著者の右肩にダガー (†) を付ける。

2.2 Key words は原稿の内容を的確に表現しうる 3-6 個の単語または句を選び, 2.1 項の後に記入する。和文論文で英文抄録がある場合は, 英文で記載しそのあと () 内に和文で記載する。これらの単語 (句) はセミコロンで区切る。

2.3 編集部との連絡のために, 表紙末に Word® の「テキストボックス作成機能」を使用してテキストボックスを作成し, その中に和文で連絡著者名, 連絡住所, 電話番号, メールアドレスを記入する。なお, メールアドレス以外は公開時には記載されない。

2.4 内容がわかるネイティブスピーカーの校閲済み英文 (表題, 抄録, 本文) であることを示すために, 校閲を受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) を 2.3 で作成したテキストボックス内に記入する。なお, 校閲者名 (会社名) は公開時には記載されない。

3 抄録

3.1 抄録は英語で執筆する。語数は 300 語以内とし, 原稿の第 2 ページに記入する。

3.2 英文論文: 原著には抄録を付けるが, 短報や速報には付けない。必要に応じて総説, 報告, 解説にも抄録を付けてもよい。

和文論文: 原著には抄録を付ける。総説, 短報, 速報, 報告, 解説にも抄録を付けることが望ましい。

4 本文

4.1 本文は第3ページから始める。抄録を付けない場合は第2ページから始める。

4.2 本文は原則として、英文論文の場合は、Introduction, Materials and methods (Experimental), Discussion, Conclusions, Results, Acknowledgments, Conflict of interest, References, の順に記し、和文論文の場合は、序文(はじめに), 方法(材料と方法), 結果, 考察, 結論(むすび), 謝辞, 利益相反, 文献, の順に記す。

結果と考察の内容をまとめて、Results and discussion, 結果および考察, としてもよい。

4.3 見出しのレベルはポイントシステムで示す。すなわち、

1 大見出し

1.1 中見出し

1.1.1 小見出し

とする。また、「小見出し」以降、および「箇条書き項目」などについては、(1), 1), ①の順に用いる。

4.4 本文中で脚注(備考や注釈など)が必要な場合は、アスタリスク(*)を語句の右肩に付け、Word®の「テキストボックス作成機能」を使用してテキストボックスを作成し、その中に説明を記載する。

4.5 記号と符号は国際的に慣用されているものを、また単位は原則としてSI単位(国際単位)を使用する。なお、当該領域において使用が認められている特殊な単位は使用できる。

4.6 略語は初出時にスペルアウトし、その直後の()内に示し、以下その略語を用いる。

5 文献

5.1 文献は、本文中では引用する箇所の右肩にアラビア数字で上付きの通し番号^(1, 23, 16-10)を付け、文献欄に引用順に一括して記載する。番号は文献ごとに付け、1つの番号に複数の文献を引用しない。本文中に著者名を引用する場合は、混乱の起こらない限り姓のみとする。

5.2 学会発表講演要旨集、報告書、私信、未発表結果、投稿中の論文、新聞記事、パンフレットなどは文献として採用しない。

5.3 著者名は著者全員を記載する。ただし多数の著者で書かれた文献を引用する場合は、原則、第3著者までを記述し第4著者以後の著者を英文の場合は“et al.”、和文の場合は“ほか”とする。

5.4 英文論文で、和文誌名を記載する場合は正式誌名をローマ字表記し、英文誌名を併せもつときはローマ字表記の後に英文誌名を丸括弧に入れて付記する。和文論文で、和文誌名を記載する場合は略記せず正式誌名を日本語で記載する。

5.5 欧文誌名は国際規格にしたがって略記形(<http://www.issn.org/2-22661-LTWA-online.php>)を用いるが、略記形が不明の場合は、完全誌名を記載する。

5.6 文献の記載方法を以下に示す。原則としてICMJE(1997) Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals. N Engl J Med, 336:309-315の勧告を取り入れる。「号」の使用は通しページのない雑誌に限る。

5.6.1 英文論文の場合

1 Davis AD, Bax A (1985) Analysis of metal compounds found in soil sample. J Am Chem Soc, 107:7197-7200.

- 2 White HB III (1997) Competitive binding assays for biotin-binding proteins. *Methods Enzymol*, 279:464-466.
- 3 Turner EH, Smith DE Jr (1964) "Enzymes," 2nd ed., Academic Press, New York, pp. 108-115.
- 4 Smith CR Jr (1994) Monoenoic acids, "The Lipid Handbook" (Padley FB, Gunstone FD, editors), Chapman & Hall, Cambridge, pp. 80-95.
- 5 Yamazaki S (1996) NMR analysis of isotope-labeled amino acid tracers. *Biosci Biotech Biochem*, in press.
- 6 Bishop CE (1973) US Patent, 3, 770, 782.
- 7 Vallortigara G, Regolin L, Marconato F, (2005) Visually inexperienced chicks exhibit spontaneous preference for biological motion patterns. *PLoS Biol*, 3:e208, doi:10.1371/journal.pbio.0030208, <<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC1150290/>>. [accessed 16 October 2011]
- 8 Ministry of Health, Labour and Welfare (2006) "The Japanese Pharmacopoeia Fifteenth Edition," Ministry of Health, Labour and Welfare, <<http://jpdb.nihs.go.jp/jp15e/>>. [accessed 10 October 2011]

5.6.2 和文論文の場合

欧文誌の引用は 5.6.1 項を参照する。

- 1 森口覚, 村賀民佳子, 清水英治 (2000) 高齢者の細胞性免疫能低下に対する栄養と運動の影響. *日本栄養・食糧学会誌*, 53:23-27.
- 2 松本清, 松井利郎, 石川洋哉 (2002) 食品の品質にかかわる成分の分析: 特に「おいしさ」にかかわる成分. *ぶんせき*, No. 6:311-315.
- 3 広津千尋 (2004) "医学・薬学データの統計解析", 東京大学出版会, 東京, pp. 178-190.
- 4 金子丑之助, 山田始 (1985) 視神経の観察, "日本人体解剖学" (山村雄一, 古賀真一 編), 第 3 巻, 南山堂, 東京, pp. 100-127.
- 5 Lewin B (1985) "Genes" 2nd ed., John Wiley & Sons, New York. [松原謙一, 小川英行 訳 (1986) "遺伝子", 東京化学同人, 東京, pp. 605-657.]
- 6 Murray RK (2006) Intracellular traffic and sorting of proteins, "Harper's Illustrated Biochemistry," (Murray, RK, Granner DK, Rodwell VW, editors), 27th ed., McGraw-Hill, New York. [上代淑人 監訳 (2007) "イラストレイテッドハーパー 生化学", 丸善, 東京, pp.536-553.]
- 7 喜多嶋康一 (1996) 慢性骨髄性白血病の治療. *日本栄養・食糧学会誌*, 印刷中.
- 8 山岸喬, 早川一蔵 (1966) 特許公告, 昭和 41-730.
- 9 厚生労働省健康局 (2011) "平成 20 年国民健康・栄養調査結果", 厚生労働省, <<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyuu/h20-houkoku.html>>. [accessed 9 October 2011]

6 図 (写真), 表

6.1 図 (写真), 表には, それぞれアラビア数字で一連の通し番号 (Fig. 1, Table 1) を付け, 原稿の最後にまとめて添付し, 1つの Word®ファイルとする. なお, 本文中で引用する場合は, Fig. 1, Table 1 とする. 組版時, 特定の位置に図 (写真), 表の挿入を希望する場合は, Word®の「コメント機能」を使用して指示する.

6.2 図 (写真) のタイトルと説明文は, 文献欄のつぎに一括してまとめる (Figure legends (図 (写真) の説明)).

- 6.3 他文献から図（写真）などを転載する場合は，その転載許可を著者の責任において取得しておく．
- 6.4 出稿時に元の図（写真），表を作成したファイルの提出を求めることがある．